

# 平成18年度宮古群島病害虫発生予報第2号（5月予報）

## 5月の気象予報

### 要素別予報

要 素	気 温	降 水 量	日 照 時 間
予 報	並 ~ 高	並	並 ~ 多

(平成18年4月28日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

### 地点別の平均値

要 素	平均気温( )	最高気温( )	最低気温( )	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	22.3	25.1	20.1	174.8	133.4

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

## 5月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

### 宮古群島

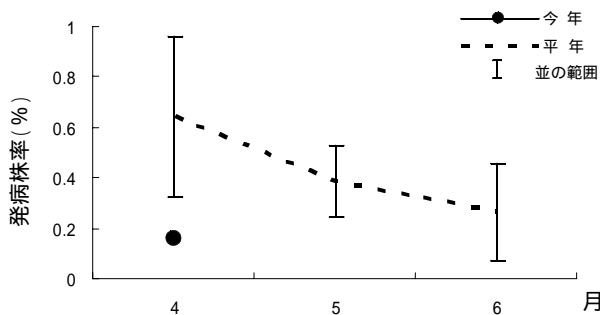
#### 1 さとうきび

##### (1) 黒穂病

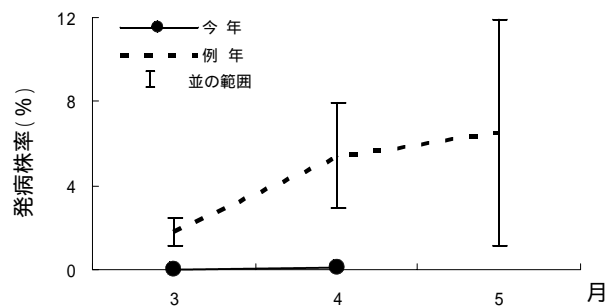
発生程度 : やや少(宮古島) 少(多良間島)

##### 予報の根拠

- a 宮古島における4月中旬の調査の結果、新植夏植圃場での発病株率は0.2%（前年0.4%、平年0.6%）と平年よりやや低かった。
- b 多良間島における4月中旬の調査の結果、新植夏植圃場での発病株率は0.1%（前年0.7%、例年5.4%）と例年より低かった。
- c 農林9号でのみ、発病がみられた。



さとうきびにおける黒穂病の発生推移(宮古島)



さとうきびにおける黒穂病の発生推移(多良間島)

### 防除上注意すべき事項

- a 毎年3月中旬頃から主に株出圃場において発生し、ピークは4～6月である。
- b 生育初期は発病株の識別が容易で抜き取り作業もしやすい。胞子の飛散を防ぐためにも、発病株は鞭状体の出現前に抜き取り処分する。
- c 収穫後の放置圃場では伝染源となる発病株が見られるため、鞭状体の出現前に耕起する。
- d 抵抗性品種を植え付けるようにする。
- e 苗の薬剤浸漬処理を行う。

## 2 マンゴー

着果～果実肥大期の病虫害防除対策について

- a 4月中旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマ、マンゴーツメハダニ、マンゴーキジラミの発生が認められたが、いずれの種も例年より発生がかなり少なかった。
- b 不必要な新葉等は摘葉し、ビニール袋に密閉収容し、施設外へ持ち出し処分する。
- c 今後、気温の上昇とともに各病虫害とも増加すると予想されることから、早期発見・防除に努める。